ひとを育てる活動

先住民族の村のミッションスクール

この度、私たちが関わるビラーン民族の村でも特に辺境にあるナブルに、CMIP としては７校目となるミッションスクールが誕生しました（関連記事P5）。かつて簡易水道建設支援をいただいたご縁で、今は HANDS の団体会員として奨学生２名のスポンサーにもなっている鎌ヶ谷市の ICECK の資金援助で実現したものです。学校を贈りたいという申し出を昨年末にいただき、地元の強い要望と関係者の努力で、新学期に間に合うよう開校できました。学校名も ICECK 側が希望した鎌ヶ谷と、CMIP の学校の総称ノートルダム・オブ・ボルール、そして村の名前ナブルを合体させることで双方が合意し、校舎には大きくその名称が掲げられました。

Notre Dame of Bolul Nabul Kamagaya School 校舎とゴンサロ先生（給与も ICECK が支援）

ちなみに２市３州を管轄するカトリック・マーベル教区には、CMIP 運営の７校と同じノートルダムの校名がついた多数のミッションスクールがあります。政府による私学支援がほとんどない中で、同じミッションでも、経済的に恵まれた子どもたちが通う都市部と異なり、授業料収入が期待できない先住民族のための学校運営は大変です。教師を十分雇用できず、ほとんどが２学年を一人の教師が教える複式学級制です。

数の確保だけではなく、国家試験に合格して公立校勤務（給与は CMIP 教師の２倍以上）の資格を得た優秀な教師に、給与が安い辺鄙な山の学校に来てもらうのは大変です。私たちの奨学生だったビラーン人教師も、合格者４人すべてが、ビラーンの村にある公立校勤務を選択しました。

ナブルのように、公立校が近くになく、CMIP のミッションスクールなしでは学ぶ機会さえない子どもたちが、よりよい教育を受けられるように、今年度も、給食、奨学金、教材等の支援を続けていきたいと思っています。　　（山崎）

卒業生近況　ージミーの選択　ー

２年前に国立 MSU の IT コースを卒業したジミーは、CMIP のボランティア教師や奨学生担当事務スタッフとして働いていました。ミッションの教師を続けたい、それには大学に戻って教職の単位を取る必要があるが経済的に難しい。そんな葛藤ののちに CMIP 退職を決めたようです。一般企業に就職するものと思っていたところ、キナムで学用品や村の野菜を販売する店を始めたい、始業資金の支援をお願いできないかという相談を受けました。キアミ訪問の体験から、店のニーズは理解できますが、皆さんにビジネスへの投資を呼び掛けるには、より具体的な事業計画が必要と伝えて、その回答を待っているところです。

あしなが奨学生紹介

前号でご報告のように、あしなが奨学生に中退者がでたため、新規に以下の奨学生を迎えることになりました。前年度から続くジョセフ（３年）、クリスチーナ（４年）に２名を加えた４名が今年のあしなが奨学生です。

＜ロジャー・ボンゴン＞

スララ技術専門学校・車両整備コース１年

1989 年３月８日生まれの 22 歳。ティボリ民族。
2009 年３月ブラクールのハイスクール卒業。
経済的理由でカレッジ進学をあきらめて、スララ町クハンの実家に戻り、コーン、バナナ、果樹栽培の父母を手伝っていた。

ロジャー

アイリーングレース

＜アイリーングレース・タグム＞

ユーロアジア・カレッジ、ツーリズム・ホテル専攻1年

1990 年９月８日生まれの 20 歳。キアンバ町のハイスクールを卒業後、専門学校で４カ月のコンピューター・コースを卒業。家事手伝いをしてカレッジ奨学生となる機会を待っていた。父親はティボリ民族ファレル住民組織代表、母親は助産師。